

鹿児島大学 障害学生支援センター センターニュース



2019.6.6発行 VOL.4

発行：障害学生支援センター

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30

共通教育棟1号館2F 修学支援室

TEL&FAX 099-285-3287

E-mail : learning-support@gm.kagoshima-u.ac.jp

URL <https://www.kagoshima-u.ac.jp/syogaku/>

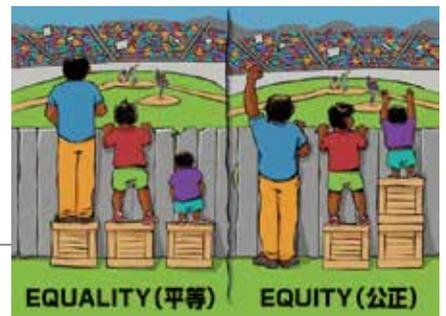
はじめに

障害学生支援センターは、平成26年9月に常任教員として今村先生に来ていただき、早いもので5年が経とうとしています。本格的な始動は本誌のデータにあるように平成27年からであり、来談者数（面談と来室）は平成27年度の206人から平成30年度は1487人と7倍にも増えて、共通教育棟1号館2階の障害学生支援センター（修学支援室）はいつも学生さんでにぎわうようになってきました。認知度が高まったことにうれしさを感じる反面、

今村先生をはじめとする少ないスタッフにかなり負担をかけており、センター長としては申し訳ない限りです。組織の疲弊を防ぐためにも、教職員の方々にご協力を要請していきたいと思っております。よろしく願いいたします。

さて5月からは令和元年となります。障害学生支援センターにおいても支援してきた卒業生の喜びの声を聞くことが多くなってきました。様々な障害を抱えながらも衰えない努力と学習意欲には頭が下がる思いです。ところで皆さんは「Equality（平等）」と「Equity（公正）」の違いについてご存じでしょうか。昨年9月のシンポジウムにてご講演いただいた京都大学の村田先生の資料に、父親と身長が異なる2人の子供が野球場の高いフェンスに並んでいる画像がありました。皆が同様に同じ高さの木箱に乗りフェンスから野球を見ようとするのが「Equality（平等）」です。でも身長の低い子は箱に乗ってもフェンスが高くて観戦できません。身長の高い子に高さのある木箱を与え、身長差があっても3人が皆等しくフェンスから野球観戦ができるようにする、このことが「Equity（公正）」です。障害を抱えた学生さんだけでなく、一般の学生さんに対しても、私たちは「Equality（平等）」であり、かつ「Equity（公正）」であるべきと考えます。またそのような観点から物事を見る目を養っていくべきかと考えます。ただし、過剰に反応する必要はありませんし、過度な対処、支援が求められているわけでもありません。例えば修学支援においては、教育の本質を曲げてまでのことを要求するものではないので、支援する側においては対象学生との間で十分に意見交換し、お互いに納得できる合理的配慮を考えていただければよろしいかなと思います。そのために障害学生支援センターでは学生と相談の上、支援申請書を出させていただいております。何かございましたら、障害学生支援センターにご連絡、ご相談いただけたらと思います。（またスタッフに仕事を増やしてしまうかな、）今後とも障害を抱えた学生へのご理解とご支援よろしく願いいたします。

令和元年6月 障害学生支援センター長 前田雅人



平等と公正はちがう!!

「鹿児島大学障がい学生支援シンポジウム2018」開催報告

日時 平成30年9月28日（金）14:00～16:30

開催場所 鹿児島大学学習交流プラザ2F 学習交流ホール

総合司会 前田 雅人（本学副学長 法文教育学域教育学系教授 障害学生支援センター長）

第1部：基調講演「高等教育における合理的配慮とは何か」

講師 村田 淳氏（京都大学 学生総合支援センター 准教授 障害学生支援ルーム・チーフコーディネーター）

第2部：体験発表「障害のある学生からみた大学生活について」

司会：今村 智佳子（本学障害学生支援センター特任助教）

発表者：本学学生（3名）

コメント：村田 淳氏

第1部基調講演では、京都大学学生総合支援センター准教授・障害学生支援ルーム・チーフコーディネーターの村田淳先生より「高等教育における合理的配慮とは何か」についてご講演いただいた。京都大学における障害学生支援ルームの位置づけや他学生支援部門との連携について説明があったのち、文部科学省の「社会で活躍する障害学生支援プラットフォーム形成事業」の概要説明があった。障害の歴史的背景を含んだ現在の考え方、合理的配慮についての考え方についてわかりやすく説明をいただいた。事例では、合理的配慮内容の構成要素として「個々のニーズ、社会的障壁の除去、非過重負担、本来業務付随、機会平等、本質変更不可、意向尊重（2016 川島）」といったものがあげられること、決定の手順として「①障害学生からの申し出、②障害学生と大学等による建設的対話、③内容決定の際の留意事項、④決定された内容のモニタリング」によって行われ、一方向のものではなく、障害の状況の変化や学年進行、不断の建設的対話、モニタリングの内容を踏まえて、繰り返し実施されるものであることが説明された。

第2部「障害のある学生からみた大学生活について」では、本学に在学する障害のある学生による体験発表が行われた。3名の学生から、実際の大学生活において感じていることについて発表があった。それぞれの個性や障害特性による様々な体験や思いが発表され、学生の熱意に直接触れることができる貴重な時間となった。

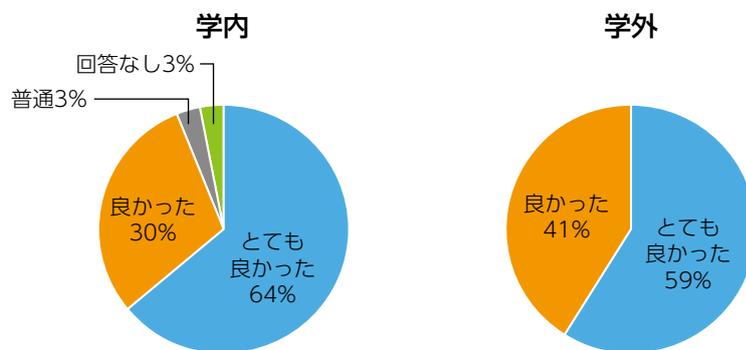
また、今回のシンポジウムでは情報アクセシビリティ（情報の利用におけるバリアフリー化）の取組みの一つとして、ダイバーシティ・コミュニケーションツールの富士通 Software Live Talk、及び聴覚情報保障ツールとして線音源スピーカーを使用した。



参加人数(人)

	教員	専門職	事務	学生	院生	その他	合計
学内	24	4	20	3	1		52
学外	4	4	16			3	27
合計	28	8	36	3	1	3	79

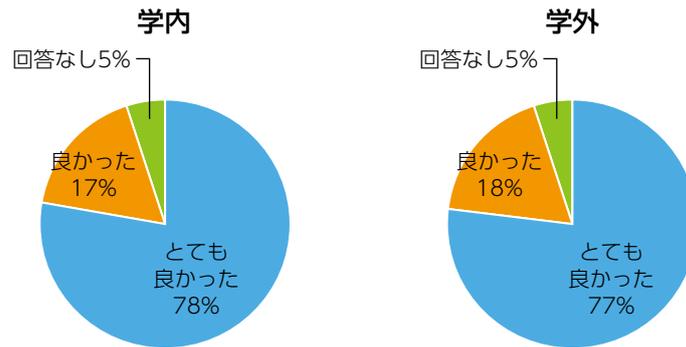
第1部 基調講演について



感想(抜粋)

- ・京大での取組概要のみならず、テーマの理解を広め・深める方向での丁寧なお話をうかがえ、大変大切な時間となった。
- ・なぜ合理的配慮をする必要があるのか、大学は何をする場であるのか、といった本質的な意義をよく理解しておくことが大切であると感じた。
- ・合理的配慮の考え方、支援決定までのプロセスなど具体的に教えて頂けて非常に参考になった。

第2部 体験発表について



感想(抜粋)

- ・学生の生の声を聞き、大学が具体的にどのような支援を行っているかがよく分かった。
- ・障害学生支援センターの役割も理解出来たし、援助システムの存在も知ることが出来た。学生もがんばっていると実感した。
- ・学生の感想を通じて鹿児島大学での障害学生支援センターの活動等について知ることが出来た。また、障害学生の求めたいことについて考える事が出来た。
- ・学ぶために必要な支援があるのと無いのとでは大きな差だと思った。
- ・学生の生の声を聞き、大学が具体的にどのような支援を行っているかがよく分かった。
- ・障害学生支援センターの役割も理解出来たし、援助システムの存在も知ることが出来た。学生もがんばっていると実感した。

PC テイカー養成講座

九州地区国立大学法人障害者支援に関する大学間連携プログラム

平成30年度パソコンノートテイク基礎研修

平成31年2月19日(火) 福岡教育大学

講義1:「大学における障害学生支援の概要」 講師:長崎大学障がい学生支援室 ピーター・バーニック助教

講義2:パソコン文字通訳基礎研修「情報保障に関する概要」 講師:福岡教育大学障害学生支援センター 永井友幸先生

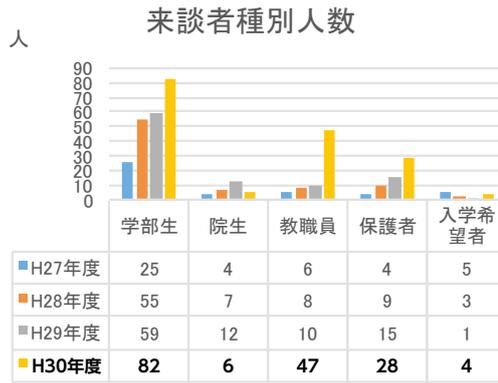
障害学生支援に関わる学生の養成を目的としたプログラムに本学より学生2名、支援員1名、事務員1名が参加し、障害学生支援の基礎やパソコンノートテイクの基礎等を学びました。各大学での障害学生支援に関する取組みについての発表もあり、各大学学生がプレゼンテーションを行いました。他大学では障害学生を支援するグループやボランティアサークルなどがあり、充実した活動が行われていることが理解でき、非常に刺激を受ける良い機会となりました。

感想(研修の感想より抜粋)

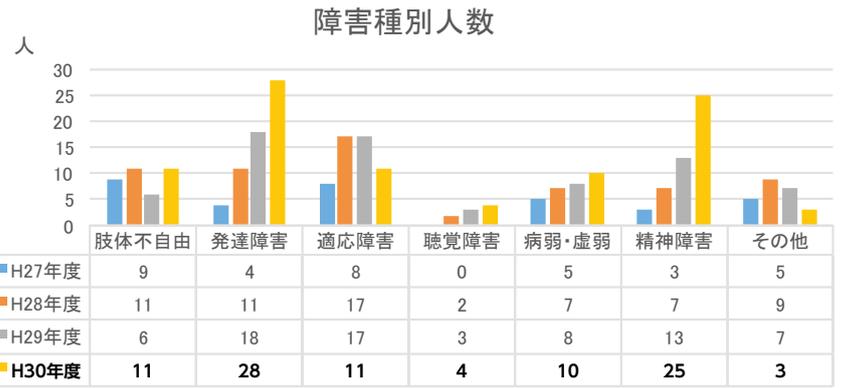
教育学部2年:研修を通してパソコンノートテイクの技術に関する事だけではなく、支援員としての心得やマナーも学ぶことが出来た。また、福岡教育大学を始めとする他の大学の学生支援を知ることが出来、学生支援のあり方には様々な形式があることを学び良い刺激となった。

工学部3年:障害のある方が暮らしやすい社会をつくる法律が出来ている中、課題はまだたくさんあると考えさせられた。大学の中にもそれらはあり、誰もが学びやすい、同じように学生生活を楽しめるような環境作りをしなければならぬと思った。人の数だけ支援をする中身も変わるものだが、その分支援する人もいれば、環境は変わると信じている。

相談件数・来談者数

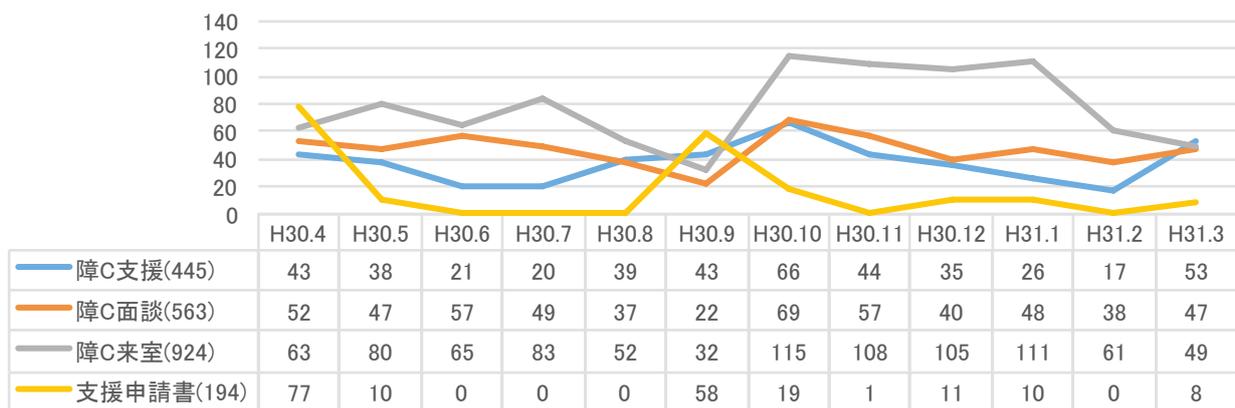


H30年度は学部生、教職員、保護者の来談数が増加しています。教職員が学生のみならず、対応や支援の視点があることで連携が増加したと言えます。



H30年度は発達障害、病弱・虚弱、精神障害が増加しています。これら3区分の増加は JASSO による全国調査においても同様の傾向となっています。

2018年度支援内容種別延べ件数(表1)



センターの活動について

障害学生支援センターの活動は大きく分けて4つあります (表1)。

障害学生支援：支援の要請があった学生に実施しています。具体的には、履修登録・成績確認・授業支援・移動支援・教室へのアクセス・学部や学科との連携等です。学生の特性や修学における時期に合わせて実施しています。H30年度は445件(H29年度は334件)の支援を実施しています。前年度比1.33倍の増加となっています。支援にあたるマンパワーの不足解消と学生支援力の向上を狙いとして、今年度は学生による支援活動も実施しました。

面談：面談の対象は学生・保護者・教員です。面談は定期的に行っている場合と、必要に応じて実施している場合の2つのパターンがあります。面談では修学、進学、自己理解、対人関係等様々な内容について話をします。H30年度は563件(H29年度は565件)の面談を実施しています。前年度と横ばいとなっています。

来室：大学は高校までと異なり、履修の関係で空き時間ができることがあります。その時間の過ごし方や居場所に悩む学生は少なくありません。そのため、障害学生支援センターは会議以外の時間は部屋を開放し学生が休息や昼食、交流の場として利用できるようにしています。H30年度は924件(H29年度は572件)の来室がありました。前年度比1.61倍の増加となっています。

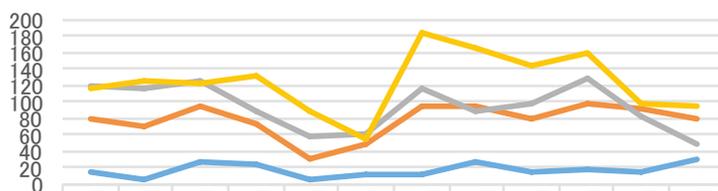
支援申請：支援申請とは障害を理由とした配慮や支援を求める際に提出する書類です。一定の手順に沿って実施します（表3）。H30年度は194件（H29年度は211件）の提出がありました。申請数が減少していることについては、部局との連携がスムーズになり、申請書の運用を効率的に行えるようになったことが考えられます。

(表3)



来談者数(面談+来室) (表2)

件



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H27年度(206)	14	7	26	23	5	11	12	27	15	18	16	32
H28年度(936)	80	69	94	73	31	50	94	95	81	97	93	79
H29年度(1138)	121	118	125	89	59	60	116	90	98	130	84	48
H30年度(1487)	115	127	122	132	89	54	184	165	145	159	99	96

面談及び来室の人数を来談者数としています。昨年度の開室日は240日で面談と来室を合わせて1日あたり平均6.2名が来室されています。

活動報告

○支援会議・協議会

年度	H30年度												合計	
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
入試事前協議会											5			5
入学事前協議会												1	1	2
修学支援会議	5	1	1		2	3	1	2	3	1	3			31

入試事前協議会、入学事前協議会、修学支援会議について

鹿児島大学では、障害のある学生からの入学試験での配慮申請について入試事前協議会を行っています。これは、これまで入試課・各学部にて実施されていた配慮の決定について入試事前協議会にて実施するものです。「障害者差別解消法」の施行により合理的配慮の提供が義務となり、配慮の提供は協議による同意形成の過程が必要となるためです。また学部による不均衡を防ぐ目的があります。また、必要に応じて入学前会議や修学支援会議を実施し、修学に対する配慮の提供やその方法について計画・実行・照合・修正を行っています。修学支援会議は昨年の12件に対し、今年度は31件と増加しています。担任、障害学生支援委員の教員、実習担当教員、保護者、本人の修学の状況や時期により必要なメンバーで集い会議を開くことで、現場がより本人のニーズに合った支援を検討できたと考えています。今後ともご協力の程よろしくお願い致します。

支援員・障害学生支援のための学生アルバイトについて

障害のある学生の修学のサポートとして支援を行っている支援員・学生アルバイトがいます。冬は白のジャンパー（写真1）、夏は紺色のポロシャツ（写真2）で活動しています。実際の支援としては、移動支援、ノートテイク、受講のサポート（教科書を広げる、見やすい位置に移動する等）があります。障害のある学生が、障害のない学生と同じように学びを深めることが出来るように支援を行っています。ご協力、ご理解をお願い致します。また、障害学生支援センターでは、障害学生の立場にたち責任を持って支援を実施できる学生アルバイトを募集しています。学生自身の成長にも、多様性ある共生社会の理解にも有意義な活動であると思います。興味のある学生がおりましたら是非ご紹介ください。



(写真1)



(写真2)

○平成30年度研修会等の活動記録

年月日	講習会
H30年4月3日	平成30年度教育学部オリエンテーション（修学支援講話） 演題「より良い学生生活のために」
H30年4月6日	平成30年度鹿児島大学新任教員 SD 研修会 演題「障がいをもつ学生の支援について」
H30年5月19～21日	日本学生相談学会第36回大会
H30年6月1日	平成30年度第1回障害学生支援連携協議会
H30年6月11日	障害学生支援専門研修 CBI SIG/Campus Social Work 「重度障害のある学生支援に必要なソーシャルワークを考える」 Web Seminar 参加
H30年8月30日～31日	平成30年度障害学生支援実務者育成研修会（基礎プログラム）
H30年9月28日	鹿児島大学障がい学生シンポジウム2018の開催
H30年10月22日	鹿児島大学医学部 学生の相談対応に関する研修会 演題「相談力スキルアップ講習（学生支援・相談対応）」
H30年11月～	バリアフリーマップ調査（写真1）
H30年11月2日	障害学生支援専門研修 CBI SIG/Campus Social Work 「障害学生支援とテクニカルスタンダード」 Web Seminar 参加
H30年11月8日～9日	第22回日本摂食障害学会学術集会
H31年1月28日	障害学生支援専門研修 CBI SIG/Campus Social Work 「米国の取組に学ぶ障害学生支援の最前線」 Web Seminar 参加
H31年2月7日	障害学生支援専門研修 CBI SIG/Campus Social Work 「重度障害のある学生に聞く！ 学生生活とソーシャルワーク」 Web Seminar 参加（写真2）
H31年2月8日	障害者支援に関する大学間関係情報交換会及び沖縄バリアフリーキャンパス研究会（写真3）
H31年2月13日	障害学生支援専門研修 CBI SIG/Campus Social Work 「災害発生”前”における大学と障害学生の準備」 Web Seminar 参加
H31年2月19日	平成30年度パソコンノートテイク基礎研修（写真4）

H31年3月1日	平成30年度鹿屋体育大学障がい学生支援に関する勉強会「鹿児島大学における障がい学生対応と学生支援」
H31年3月3日～4日	地域連携型健康（子育て・高齢者）支援事業情報交換会・講習会（奄美市笠利町）
H31年3月11日	障害学生支援専門研修 CBI SIG/Campus Social Work 「障害学生支援と防災を考える」Web Seminar 参加
H31年3月14日	障害学生支援に関する専門家協議会（熊本大学）



(写真1)



(写真2)



(写真3)



(写真4)

※障害と高等教育に関するプラットフォーム形成事業（PHED）によるウェブセミナーを定期的に開催する予定となっております。障害学生支援委員の先生方にご連絡致しますので、お気軽にご参加下さい。

指定座席・指定椅子ラベルについて

講義時に必要に応じて、指定座席や指定椅子を使用する学生がおります。写真1のようなラベルを貼付しておりますので、見かけた際はご協力よろしくお願い致します。



指定座席（ 曜 限 ）となっております。
必要な学生が使用しますので、別の座席をご利用下さい。
修学支援室（285-3287）

(写真1)

災害時に備えて～いざというときに～

救い帯（写真1、2）（販売元：日本緑十字社）
災害時や介護時に簡易イス型担架となる。

- ◎階段や狭い場所で効果を発揮
- ◎軽くてコンパクト
- ◎防災備蓄品としても有用



(写真1)



(写真2)

レスキューボードベンチ（写真3、4）

（販売元：株式会社テラモト）

普段はベンチとして使用でき、緊急事態の際は座面を取り外して担架として活躍できる。素早い救助活動が行える新発想のベンチ。



(写真3)



(写真4)

支援機器 ※支援説明やお試しも出来ますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

NO	支援機器	メーカー・機種・その他
1	点字対応テプラ	キングジム SD6700D
2	ICレコーダー	Panasonic RR-XS455-K
3	車いす	マツナガ 42幅 自走タイプ
4	ロジャーペン	補聴器を使用中的の方の受講やグループディスカッションに有用
5	ロジャータッチスクリーンマイク	補聴器を使用中的の方の受講やグループディスカッションに有用
6	ロジャーフォーカス	聴力に関係なく、大きな講義室の中で先生の声だけをよりクリアにきくことが可能
7	ストレッチマット・ボール	屋内外兼用
8	筆談ボード	Memle BR
9	テント	North Eagle キャンピーフルクローズ
10	折りたたみベッド	F907-g1001-100
11	ウェブカメラ	C-615
12	書画カメラ	エプソン ELPDC21
13	ロジャー 線音源スピーカー	デジタルマスター7000
14	ロジャー パスアラウンドマイク	2台
15	PC テイク用パソコン	Lenovo ThinkPad(3台)
16	i Pad	Apple(2台)

・ Column ・

桜の季節はあっという間に過ぎて、春ってこんなに短かったっけ？と思う。

透明感のある赤色のサクランボをつかもうとしている小さな手をみて、集まる鳥たちをみて、そろそろ美味しいって知っていたのかな？と思う。

満開の桜をみてきれいだ、お花見はいつがいいだろうかと楽天的なのは私だけけれど、散っていく様を想像して切なくなる人もいるだろう。

青葉の茂る桜を想像してああ忙しくなると思う人もいるだろう。冬の寒さに耐えた桜の健闘をたたえる人もいるかもしれない。

センターを利用する学生達もそれぞれの想像をもっている。刹那的だったり、悲観的だったり、楽観的だったり・・・それぞれの想像を教えてもらいながら少し豊かな想像にする手伝いができればと思う。(I)

近頃、大学内の駐輪禁止ゾーンに多くの自転車が停めてあるのを見かけます。特に梅雨を迎える頃までは、その乱雑さが目立つように感じます。正規の場所にスペースがなかった、急いでいた、気付かなかった等、それぞれに事情があると思いますが、大学も公共の場。マナーが守られている場所は、多くの人にとって優しく安心できるものです。自分の行動が、どんな場所を創ることの一助になっているでしょう。

風薫るさわやかな季節、少し立ち留まってみてください。(K)

今年の新入生には2000年生まれの子がいるそうです。ミレニウムベビーと言われた世代がもう大学生なんて・・・2000年に大学入学した私は、なんだか感慨深く思います。

学生と接していると、物事や自分自身をよく見つめているなと感心することがあり、その話をすると、「深く考えざるを得ないとも言えるのかな」とちょっと意外な返答がありました。いろいろな角度や視点から見ると、見え方は異なる。様々な"見え方"を与えてくれるこのセンターに感謝する日々です。(H)

昨年度、他大学の修学支援室の方々と「パソコンノートテイク基礎研修」に参加する機会を与えていただきました。その際に拝聴したそれぞれの大学での取り組みはとても興味深く、勉強になりました。今年度も学生さんの学生生活を少しでもサポート出来たらと思います。

令月にして風和らぐ…この新しい時代を共に過ごせることに、大きな喜びを感じます。(N)